

あいつぐ不安の声

市立病院の医師激減をめぐる

背景には全国最低水準の県政の問題も

本紙先週号でもお知らせした市立病院の医師の大量引き上げに問題は、患者さんや市民のあいだに不安を広げています。

ある脳外科の患者さんは「今日、診察に行ったら、医師から今月でやめるので他の病院を紹介すると言われた。私だけでなく多くの患者も、これから先どうなるのかと心配の声をあげている」。

また、ある市民は「先週病院に行ったが、患者の中

では、大量に医師がいなくなるという噂でもちきりだった。いったいどうなっているのか。署名運動など私たちにできることがあれば協力したいが」等々の声が、日本共産党市議団へ寄せられています。

市長や院長からは「医師を紹介してほしい」と議員への要望がありました。同時に、行政と市民が一体

となつて市立病院の危機を打開する運動も急務になってきています。日本共産党市議団は「市立病院の存続を求めて市民と一緒に力を尽くします。そのためにも25日に告示された知事選で、医師

の数が全国46位という最低

全国指標をみると…

■特設ホーム病床数	……41位
■ホームヘルパー数	……42位
■医師数	……46位
■小児科医	……47位
■看護師数	……44位
■小学校教員数(生徒1人あたり)	……43位

間宮たか子県知事候補の政策ピラから

水準の県政を変えていきたい」と述べています。



夏祭り

磯原町豊田の大六天王祭



水戸で演説会

塩川てつや比例候補、市田書記局長を迎えて

水戸で開かれた演説会で塩川てつや比例区候補の訴えを紹介し、また、市田書記局長は「自民党は運営費の65%を、民主党は85%を税金でまかなっている。まず自分のところを民営化すべきではないか。政



小泉首相は「民間にできることは民間に」「民営化すればサービスはよくなる」と絶叫します。しかし、世界を真視してみれば郵便事業を民間企業でやっている国はほとんどありません。小泉首相の大好きなブッシュ大統領のアメリカでも、国営事業です。アメリカで郵政民営化を検討したときの結論は「国営事業が望ましい」でした。採算重視の民間任せにしたら、全国一律に郵便物を

演説会から 塩川てつや候補(比例・北関東)

「郵政は国営」が世界の流れ 民営化はサービス後退の道

はじめ民間金融機関はいま、採算重視でどんどん店舗を減らしています。過去六年間で二割の四千以上、過疎地では5割も減らしました。そういうなかで、金融サービスを維持してきたのが郵便局

届けることができなくなると。国営で行うことが国民サービスを維持することになる。これが世界の流れです。民間にできない金融サービスを提供してきたのが郵便局です。大銀行を

て練り上げたのが今度の法案です。みなさんの安心・安全の郵貯や簡保の資金をデリバティブ(先物取引などの金融派生商品)などの投機的な運用に回すことによって、手数料を荒稼ぎしたいという要求に応えるもので